



日本ライフライン株式会社

2026 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

2025 年 10 月 30 日

イベント概要

[企業名]	日本ライフライン株式会社		
[企業 ID]	7575		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2026 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会		
[決算期]	2026 年度 第 2 四半期		
[日程]	2025 年 10 月 30 日		
[ページ数]	22		
[時間]	10:00 – 10:34 (合計：34 分、登壇：20 分、質疑応答：14 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]			
[登壇者]	4 名		
	代表取締役社長 社長執行役員	鈴木 啓介 (以下、鈴木)	
	代表取締役 副社長執行役員	村瀬 達也 (以下、村瀬)	
	取締役 常務執行役員 経営管理本部長	江川 毅芳 (以下、江川)	

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



取締役 上席執行役員 不整脈事業本部長 伊藤 孝志（以下、伊藤）

[アナリスト名]* 野村證券 森 貴宏

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

シノハラ：本日、司会進行を務めます、経営企画部のシノハラです。本日は、お忙しい中、日本ライフライン株式会社の2026年3月期第2四半期決算説明会にご参加いただきましてありがとうございます。

本日の説明会には、代表取締役社長の鈴木啓介、代表取締役副社長執行役員の村瀬達也、取締役常務執行役員の江川毅芳、取締役上席執行役員の伊藤孝志が出席しています。

これより、IR担当取締役の江川および副社長の村瀬から、2026年3月期第2四半期決算について合計約30分程度プレゼンテーションしたのち、質疑応答を行います。会議の全体の時間は90分を確保しておりますが、本日は分量的には少々早めに終わる可能性もあります。

ご説明は、昨日ホームページに掲載した決算説明資料に沿って行いますので、ホームページよりダウンロードの上ご覧いただければと思います。

会議を始める前に、皆様にお断り申し上げます。これから行う説明では、現時点の予想に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、それらは全てリスクならびに不確実性を伴っています。皆様には、実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

それでは、説明を開始します。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



	2026/3期 上期	決算ハイライト
売上高	過去最高 29,285 百万円 (前年同期比 + 4.6%)	増収増益 (売上高・営業利益・純利益は上期として過去最高)
営業利益	過去最高 6,620 百万円 (前年同期比 + 5.7%)	外部要因 (+) AF症例数は前年同期比10%増加 (-) 一部製品にPFA*2の影響 (-) 公定価格の改定(影響2か月)*3
純利益*1	過去最高 4,774 百万円 (前年同期比 + 7.7%)	内部要因 (+) コア製品群*4は総じて堅調 (+) 新領域は前年同期比38.4%増加 (+) 貸倒債権を一部回収(一過性要因)

*1 親会社株主に帰属する中間純利益 *2 Pulsed Field Ablation (パルスフィールドアブレーション) *3 2024年6月に公定価格が改定。2025年4月、5月の販売単価は前年同月比で下落

*4 競争力が高く特に注力する4つの製品 ⇒ ①心腔内除細動カテーテル「BeeAT」(=EP/アブレーション)、②大腿静脈用止血デバイス(=EP/アブレーション)、③S-ICD(=リズムデバイス)、④Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントランク)(=心血管関連)

4

江川：CFO の江川です。それでは、資料に従ってご説明させていただきます。

まず、上期の決算ハイライトです。第2四半期6カ月は、増収増益という結果になりました。売上高から中間純利益まで、上期としてはすべて過去最高という結果になりました。

売上高は4.6%増収の292億8,500万円、営業利益は5.7%増益の66億2,000万円、中間純利益は7.7%増益の47億7,400万円という結果になりました。

増収増益となった主な要因を、6点ほどご説明します。外部要因と内部要因に分けてご説明します。

外部要因は3点あります。プラスの要因は、AF症例数が前年同期に比べて10%増加となりました。これにより、EP/アブレーションの売上がけん引された結果になりました。

一方で、マイナスの外部要因は2点あります。1点目は、EP/アブレーションの分野においてPFAという新しい手技が浸透してきています。このPFAへの浸透により、一部の自社製品で売上が減少しているところが、マイナスの要因となっています。

もう1点のマイナス要因は、公定価格について昨年6月に改定されたことがあり、前期との対比で申し上げますと2カ月分のマイナスの影響を受けたということがあります。これにより、粗利は9,000万円のマイナス影響を受けています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

✓ 増収増益。売上高・営業利益・純利益は上期として過去最高を更新

(百万円)	2025/3期 上期	2026/3期 上期	前年 同期比	前年 同期比%	コメント
売上高	27,985	過去最高 29,285	+ 1,299	+ 4.6	(+) 症例増による数量増加 (+) 新領域の拡大
売上総利益	16,963	17,557	+ 593	+ 3.5	(+) 症例増による数量増加
%	60.6%	60.0%		▲ 0.6pp	(-) 公定価格の下落(影響2か月分) (-) 製品ミックス
販管費	10,703	10,937	+ 234	+ 2.2	次ページで詳細説明
営業利益	6,260	過去最高 6,620	+ 359	+ 5.7	次ページで詳細説明
%	22.4%	22.6%		+ 0.2pp	
純利益*1	4,435	過去最高 4,774	+ 339	+ 7.7	
%	15.8%	16.3%		+ 0.5pp	
自社製品比率	57.6%	55.1%		▲ 2.5pp	脳血管・止血デバイス等の仕入商品の拡大 食道カテーテル等の自社製品の減少*2
海外売上高比率	2.0 %	2.6%		+ 0.6pp	
1株当たり利益	61.87円	68.08円	+ 6.21円	+ 10.0	(+) 自己株式の取得&消却(2024/5)

*1 親会社株主に帰属する中間純利益 *2 自社製品売上高 0.1%増収、仕入商品売上高 10.7%増収

6

続いて、第2四半期のP/Lです。前期との対比という数値になっています。営業利益までは、次のスライドで増減要因をご説明させていただければと思います。

それ以外の点ですが、下から3番目です。自社製品比率については、57.6%から55.1%へ2.5ポイント減少となっています。

理由としては、仕入商品の脳血管領域や止血デバイスが大きく伸長しています。一方で、自社製品については、PFAの影響により食道モニタリングカテーテルの売上が主に減少し、自社製品比率が低下したという結果になっています。

その下は海外売上高比率で、こちらは2%から2.6%へ0.6ポイント増加しています。新しい中計の一つの取り組みとして、グローバル売上の拡大を掲げています。こちらが着実に進んでいるところが、こちらの数字に出ているという結果になっています。

最後です。1株当たり利益については、中間純利益が増益となったことに加え、前期5月に自己株式の取得を行っています。この結果、期中平均株式数が当期では減少したことがあり、10%ほど増加している結果になっています。

サポート

日本

050-5212-7790

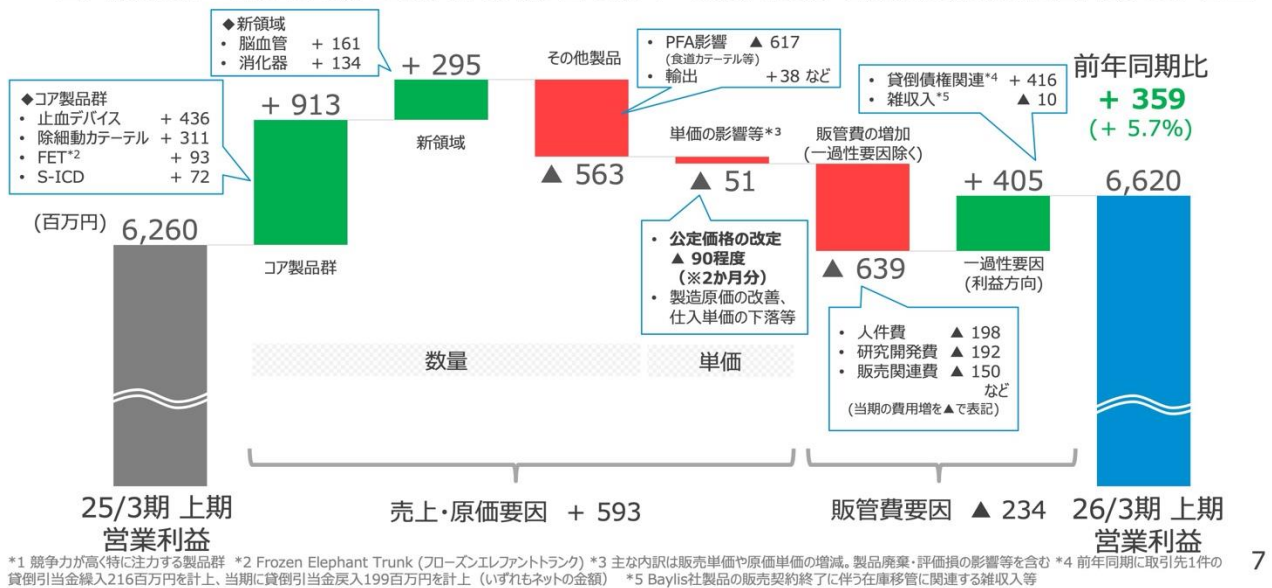
フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

2026/3期 上期 営業利益の増減分析

✓ コア製品群*1と新領域が堅調でPFA影響をカバー。販管費は増加も貸倒債権回収があり増益



7

こちらは、営業利益の昨年の数字からの増減の表です。62 億 6,000 万円の営業利益から 66 億 2,000 万円と、3 億 5,900 万円の増益となっています。

全体として、PFA の影響により一部製品の販売数量が減少しています。また、人件費等の販管費の増加があったところで営業利益に対してはマイナスの要因があったのですが、一方でコア製品や新領域が、特に注力商品の販売数量が伸びてこういった減益要因をカバーしました。

これに加え、貸倒債権の回収があり、トータルで 3 億 5,900 万円の増益という結果になっています。

それでは、細かいところですが、売上・原価要因と販管費要因をそれぞれご説明します。売上・原価要因は四つあり、トータルで 5 億 9,300 万円の増益となっています。

まず、一番左です。コア製品群は 4 製品あり、それぞれ販売数量の増加により 9 億 1,300 万円の増益となっています。その隣は、新領域、脳血管、消化器になり、こちらも販売数量の増加により 2 億 9,500 万円の増益となっています。

一方で、赤いところは減益要因となっています。その他製品では、PFA の浸透により食道モニタリングカテーテルの販売数量が減少したことで、トータルで 5 億 6,300 万円の減益となっています。さらに、単価の要因としては、昨年 6 月に公定価格の改定があったことにより 9,000 万円ほど減益という要因になっています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

これらすべてを合わせ、売上と原価の要因で5億9,300万円の増益となっています。

その隣は、販管費要因です。こちらは、販管費の増加により6億3,900万円ほど減益の要因となっています。

内訳としては、給与水準の増加による人件費の増加となっています。その下の研究開発費については、PFAなどの研究開発活動が活発になっていますので、これにより1億9,200万円ほど費用が増えた結果になっています。3番目の販売関連費は、営業活動の増加により販売関連費用が増え、1億5,000万円ほど減益の要因となっています。

その隣の一過性の要因もあります。こちらは、増益要因となっています。主なものは、昨年取引先の手形取引停止処分により貸倒引当金を2億1,600万円ほど引き当てていました。一方で、当期において一部の債権を回収できたことにより、2億円ほど販管費がマイナスという結果になっています。

昨年の引当2億円と、当期の戻入の2億円の差額が4億円ほどになりますので、4億円ほどの増益という結果になっています。

これらすべてを合わせ、販管費では2億3,400万円の費用の増加で、減益要因となっています。結果としては、3億5,900万円、5.7%の増益となっています。

2026/3期 上期 予想に対する進捗率

JLE Japan Lifeline

✓ 売上・利益ともほぼ期初の予想通りに進捗



8

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

こちらは、期初5月7日に公表した業績予想の進捗状況です。売上高、営業利益、中間純利益、すべておおむね進捗率50%で進捗しています。営業利益と中間純利益については、研究開発費等の四半期ずれがあり、少し進捗がよくなっているという結果です。

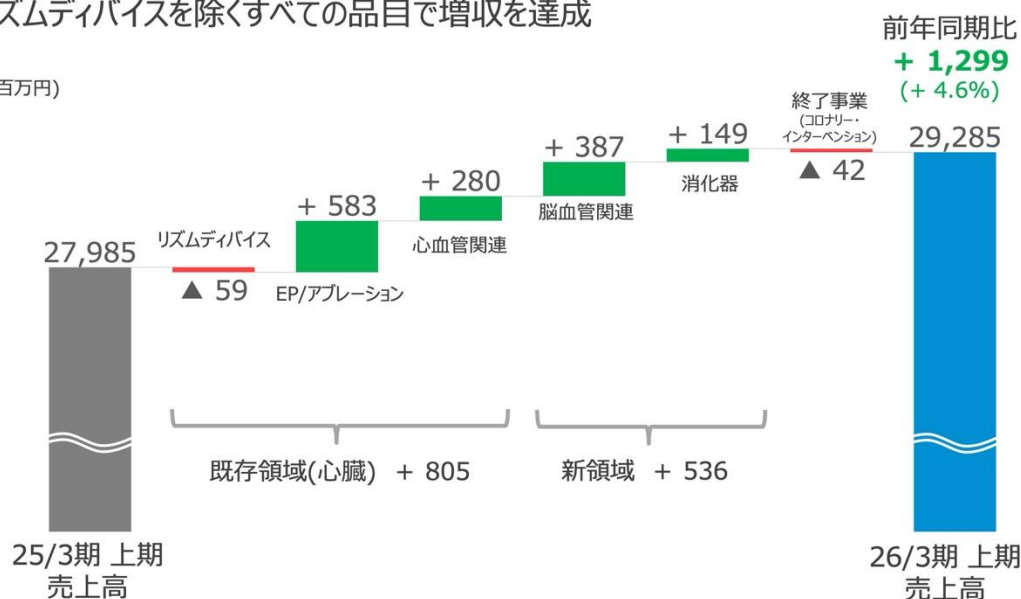
ここから先は品目別の説明です。副社長の村瀬からご説明します。

2026/3期上期 売上高 前年同期比較

JLE Japan Lifeline

✓ リズムデバイスを除くすべての品目で増収を達成

(百万円)



11

村瀬：副社長の村瀬です。私から事業別の状況を説明させていただきます。

前年同期比較です。リズムデバイスを除くすべての品目で増収を達成しています。特に、EP/アブレーション、脳血管、これらの事業が大きな伸びを示しています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

コア製品のS-ICDが好調に推移し、前期並みを確保

■ リズムデバイス 売上高



*1 心臓突然死を予防する目的で、致死的不整脈の発症前にICDを植え込むこと

■ 市況 & 販売ハイライト

(+) コア製品のS-ICD 9.3%増収

- 予防的植込み*1の増加により、症例数は増加傾向
- 新規症例で他社の新製品の影響を受けるも、交換症例が想定より堅調

(-) ペースメーカ関連 19.0%減収

- 他社のリードレスペースメーカの浸透(新規市場の約30~35%)が逆風
- 公定価格改定の影響(2か月分、約14%下落)

(+) リードマネジメント製品 Q1より販売開始



12

リズムデバイスの状況から説明します。コア製品の S-ICD が好調に推移し、前期並みを確保することができました。S-ICD に関しては、9.3%の増収となっています。

2 点要因があります。一つは、予防的植込みの増加により症例数が増加傾向にあるという市場の環境と、他社の新製品の影響を受けたのですが、交換症例が想定より堅調だったことで 9.3%の増収を達成できています。

一方で、ペースメーカ関連に関しては、リードレスペースメーカの浸透があり、われわれにとっては逆風になっています。また、公定価格改定の影響も 2 カ月分入っており、19%減収となっています。

また、今期より、リードマネジメント製品でフィリップス社から引き継いだ製品を販売していますので、こちらも増収に寄与しています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

パルスフィールドアブレーション(PFA)*¹の浸透がある中でもコア製品は好調

EP/アブレーション 売上高

(百万円)



*¹ 外資メーカー3社が推進しているカテーテルアブレーションの新しい治療法 *² 心腔内除細動カテーテルおよび食道温モニタリングカテーテルを除く電極カテーテル

市況 & 販売ハイライト

(+) 心房細動(AF)症例の増加 前年同期比+10%

(+) コア製品の心腔内除細動カテーテル 6.5%増収

➢ ほぼ期初の想定通りに進捗

➢ 推定シェア96%(9月)

(+) コア製品の止血デバイス 前年同期比 2.1倍

➢ ハイボリューム施設での新規採用、中小規模施設へも拡大

(-) PFAの影響

➢ PFAはAF症例全体の6割まで普及か(9月)

➢ 食道温モニタリングカテーテル 49.1%減収 (PFAで不要)

➢ EPカテーテル*² 4.9%減収 (PFAで使用本数が減少)

今後、PFAの浸透がさらに進む場合、トータルでは業績にポジティブ
⇒ 症例数増加が、心腔内除細動カテーテルや止血デバイスに追い風

13

次は、EP/アブレーションです。こちらは、先ほどからありますように、PFA の浸透がある中でもコア製品は好調に推移しています。

われわれの主力製品である BeeAT に関しても、AF の症例が前年同期比約 10%伸びたのですが、その中でもしっかりと 6.5%増収です。若干差があるのですが、この差については前年同期比、まだ発売されていなかった競合製品との比較がありますので、そことの差と、少し価格対応したこともあり、金額ベースでは 6.5%増収となっています。

止血デバイスも引き続き好調で、かなりの施設に浸透することができたと考えています。

PFA の影響は、食道モニタリングカテーテルや EP カテーテル、特に食道モニタリングカテーテルは大幅な減収となっています。

ただ、今後、PFA が現在 6 割ぐらいまで普及していると思っていますが、仮に普及が進んだとしても、弊社にとっては症例数が増えるということでポジティブに進むと考えています。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

Frozen Elephant Trunk (FET)*¹が成長をけん引

■ 心血管関連 売上高

(百万円)



■ 市況 & 販売ハイライト

(+) コア製品のFET 5.6%増収

- Q2でFET症例数が一時的に減少 ⇒ 期初予想に対しては若干未達
- Q3以降の需要期を見据え、FET関連のセミナー企画等を精力的に実施

(+) 人工血管 7.1%増収

(ー) 腹部ステントグラフト 2.8%減収

(+) その他

- ヘモネティクス社のTAVI*²用センサー付ガイドワイヤーを取り扱い開始
- 再生医療のHeartseed社と協業開始。投与カテーテルシステムを販売



*1 FET：大動脈疾患の開胸手術で使われる末梢側にステントがっている人工血管 *2 TAVI=Transcatheter Aortic Valve Implantation (経カテーテル的大動脈弁植込術)

14

次は、心血管関連です。こちら、コア製品である Frozen Elephant Trunk が成長をけん引しています。Q2 に若干症例数が減少したのですが、ここは一時的な要因で、引き続き堅調な成長が見込めると考えています。

これと合わせて、人工血管も 7%の増収で、市場全体が活性化しているのではないかと見ています。

一方で、腹部ステントグラフトは若干の減収となっています。全体の市場が伸び悩んでいることで、下期にかけてもこの傾向は続くと思いますが、しっかりとシェアを伸ばすことで回復したいと考えています。

その他について、2点あります。まず一つは、TAVI 用センサー付ガイドワイヤーの取り扱いを開始しました。これは、今後導入予定のメリル社の TAVI の導入に向けて地ならししたいということで、しっかりと TAVI の顧客に先にわれわれが入っていく目的で販売を開始しています。非常に特徴ある製品ですので、しっかりと市場に普及していきたいと思っています。

また、再生医療はのちほどスライドで説明したいと思います。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

血栓吸引カテーテルを中心に高成長が継続

脳血管関連 売上高

(百万円)



市況 & 販売ハイライト

(+ 血栓吸引カテーテル 前年同期比 1.9倍

- Q1にローンチした末梢血管向けの新モデルが大きくけん引
- 推定シェア20%(9月)、業界3番手ポジションへ

(+ 塞栓用コイル 16.0%増収

- 放射線科向けの新モデルで脳血管以外の市場も開拓

(+ ステントリトリバー 堅調に伸ばす



15

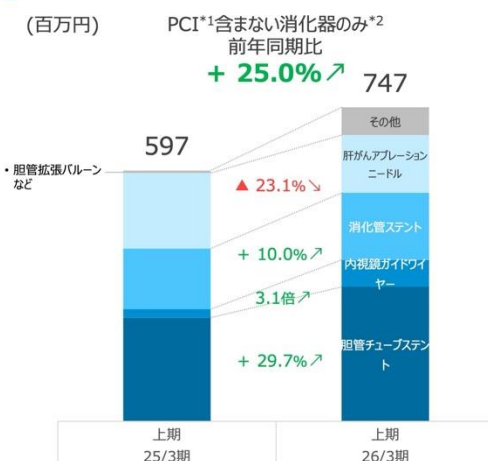
脳血管関連です。こちらは、血栓吸引カテーテルを中心に非常に高い成長が継続しています。血栓吸引カテーテルは、前年同期比約2倍、ファーストクォーターに発売した抹消血管向けの新モデルが大きくけん引しています。

これを含め推計シェアは約20%に到達すると見ていて、業界3番手ポジションになっていると考えています。塞栓用コイル、ステントリトリバーも引き続き堅調に伸ばしています。

胆管チューブステントの成長が加速

消化器 売上高

(百万円)



市況 & 販売ハイライト

(+ 胆管チューブステント 29.7%増収

- Q1上市の新モデルが想定以上に好評

(+ 内視鏡ガイドワイヤー 前年同期比 3.1倍

- 着実に伸ばすも、想定より販売に遅れ

(+ 消化管ステント 10.0%増収

- 前年同期に胃・十二指腸用ステントで自主回収

(- 肝がんアブレーションニードル 23.1%減収

- テルモ社へ販売移管、販売単価が減少



*1 PCI: Percutaneous Coronary Intervention 虚血性心疾患の経皮的冠動脈治療。24/3期に終了(一部売上が残る) *2 CIを含むベースでは25/3期上期 680百万円 26/3期上期 787百万円 (前年同期比15.7%増収)

16

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

最後は、消化器です。こちら、胆管チューブステント、内視鏡ガイドワイヤー、消化管ステント、それぞれしっかりと伸ばしてくれています。

一方で、肝がんアブレーションニードルをテルモさんに移管したことにより 23%減少していますので、若干伸び率がニューロに比較して弱いですが、ここもしっかりと成長軌道に入っていると考えています。

トピック① Heartseed社との協業・提携について

JL Japan Lifeline

- ✓ 再生医療等製品を手掛けるHeartseed社と投与カテーテルシステムを共同開発
(2025/9/11 共同プレスリリース)



- 重症心不全の再生医療でユニークな「心筋補填療法」を開発
- 他家iPS細胞由来心筋球をカテーテルで投与する臨床試験(HS-005)を計画
- 2025/10/2 治験届提出リリース



開胸せず心臓の内側からカテーテルを使って細胞を投与



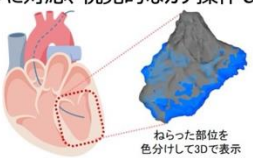
- 不整脈診断カテーテルでトップシェアの実績
- 再生医療向けのカテーテルの開発&臨床実績あり(国内唯一)
- 細胞投与時の安全を確保するための独自構造・特許



投与カテーテルシステムを共同開発

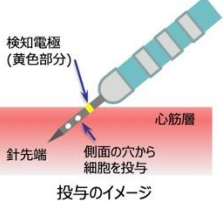
投与の安全性を確保するための独自構造について

①3Dマッピングに対応、視覚的なカテ操作 & 投与位置確認



ねらった部位を色分けして3Dで表示

②投与針の細胞吐出口が心筋に到達したことを検知する仕組み(特許第7368599号)



検知電極(黄色部分) 針先端 側面の穴から細胞を投与 投与のイメージ



検知電極が心筋層に到達した時、心電図は赤丸のような特徴的な波形(ST上昇)を示す。このとき、検知電極より先端側にある細胞吐出孔は心筋に確実に到達している

最後に、2点ほどトピックを説明します。1点目が、Heartseed社さんとの協業・提携についてです。再生医療品を手掛けるHeartseed社さんとの投与カテーテルシステムの共同開発を、今年9月11日にプレスリリースしました。こちらは、弊社の長年のカテーテルの開発、臨床の実績を用いて、安全で正確な投与ができるカテーテルを共同開発しています。

右側にあるように、3Dマッピングに対応し視覚的なカテ操作と投与位置が確認できるシステムと、投与針が心筋に到達したことを知らせる仕組みをこのカテーテルに搭載しています。10月2日に治験届を提出していますので、こちらもしっかりと進めてまいりたいと思っています。

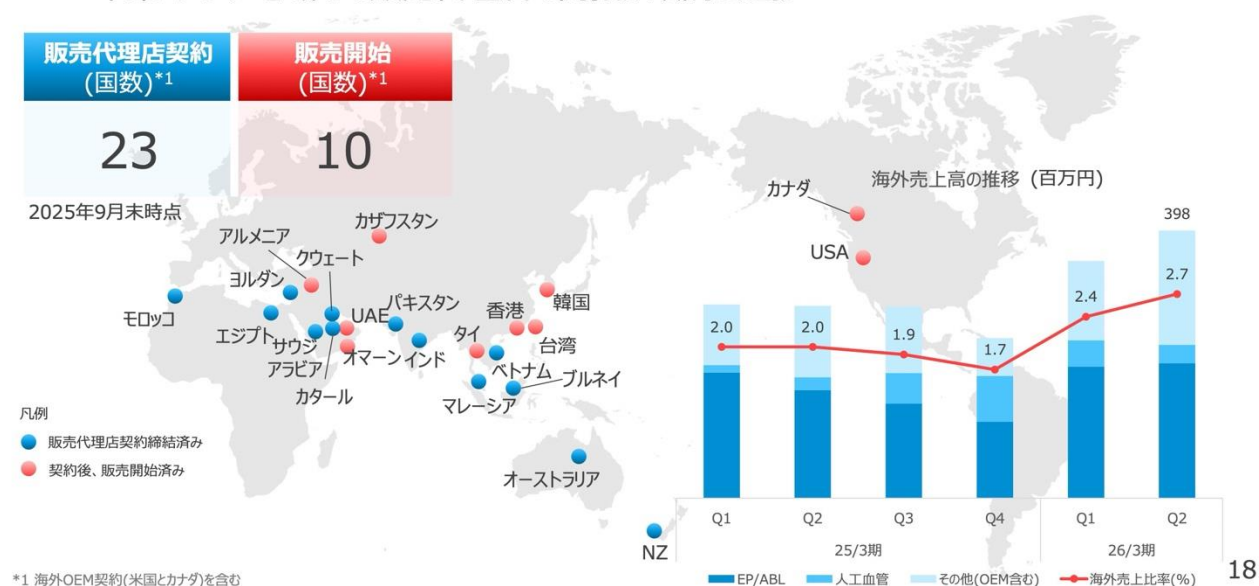
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

トピック② 海外展開の状況

✓ 中東・アジア地域での販売代理店の開拓が順調に進捗



最後に、海外展開の状況です。先ほど江川からもあったように、着実に海外比率は、右下のグラフのように上がっています。

現在、販売代理店契約国数は 23 カ国、販売開始国数は 10 カ国となっています。今後、主に中東の国がどんどん開いていくかと思うので、こちらが業績に寄与し海外の売上比率も上がっていくと考えています。

説明は以上になります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

質疑応答

シノハラ [M]：これより、質疑応答に入ります。最初に、野村證券の森様、お願いします。

事業環境 現時点から6か月先の見通し

JL Japan Lifeline

✓ YoYベースの見通し(前回までのQoQベースから変更)を矢印で表す

✓ 前回の見通しから変更がある場合は、コメントを赤字で記す(今回は変更後初回のためコメントなし)

メイン区分	サブ区分	2026/3期 Q2 実績		2026/3期 Q3 予想		2026/3期 Q4 予想	
		営業日数：62 (前期+0)		営業日数：62 (前期+0)		営業日数：58 (前期+1)	
リズムデバイス	ペースメーカー関連	↓	(-)他社リードスペースメーカーの影響等	↓	同左	→	(+)リードレス影響一巡
	ICD関連	→	(+)予防的植込で市場拡大 (S-ICD増加) (-)他社新製品	→	同左	→	同左
EP/アブレーション	EPカテーテル	→	(+)AF症例数+13% ※前期学会あり、当期なし (-)PFA拡大の影響	→	(+)AF症例数+10%程度 (-)PFA拡大の影響 ※大きな減収要因となるのはQ3までを想定	↑	(+)AF症例数+10%程度
	その他	↑	(+)止血デバイス	↑	(+)止血デバイス (+)ステイラブルシース拡販	↑	(+)止血デバイス (+)ステイラブルシース拡販 (-)RFニードル販売支援終了
心血管関連	人工血管関連	→	(-)FET・腹部ステントグラフト市場やや鈍化 (+)人工血管	↗	(+)FET持ち直し	↗	(+)FET伸長 (+)腹部ステントグラフト持ち直し(新サイズ)
脳血管関連	脳血管関連	↑	(+)血栓吸引カテ(新モデル) (+)コイル(新モデル) (+)ステントリトリバー(純増)	↑	(+)血栓吸引カテ・コイル拡大	↑	(+)血栓吸引カテ・コイル拡大 (+)ステントリトリバー(新モデル)
消化器	消化器 (消化管、胆膵)	↑	(+)胆管チューブステント(新モデル) (+)個々の製品も伸長	↑	(+)胆管チューブステント (+)個々の製品も伸長	↑	同左
全社		↗		↗		↑	

凡例： ↑ or ↓ 1桁後半以上増加 or 減少 ↗ or ↘ 1桁半ば程度増加 or 減少 → 1桁半ば未満増加 or 減少

25

森 [Q]：野村證券の森です。ありがとうございます。

25 ページをお願いします。こちらで上向きの矢印、1桁後半以上の増加 or 減少で、止血デバイスのところ、下期 Q3、Q4、そして脳血管、消化器のところは従来の見通しからよくなっているということでしょうか。このあたりを詳しく、下期について教えてください。

村瀬 [A]：村瀬から回答します。

止血デバイス、脳血管関連については、従来の見通しよりもよくなっていると見ています。消化器に関しても、先ほど説明した胆管チューブステントなど、従来の見通しよりも上振れしている製品もありますが、若干消化器に関しては計画に達していない製品もありますので、ここはミックスかと考えています。

森 [Q]：止血と脳血管が従来よりよくなっている背景について教えていただけないでしょうか。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

村瀬 [A]：まず、脳血管に関しては、先ほど申した血栓吸引カテーテルが、3 フレンチの非常に細い製品が想定よりも早く上市できたことで、ほぼ市場でオンリーワンの製品なので、その領域が非常に拡大しています。

もう一つ、ステントリトリバーも、われわれの製品の弱点であったマーカ付きが想定よりも早く承認が取れました。これが下期に発売できますので、そこが想定よりも上回る要因と思っています。

止血デバイスに関しては、われわれの想定以上のスピードで浸透が進んでいます。医療従事者様はこれを 1 回使ったら、患者様、医療従事者様にとっても非常にいい製品ですので、想定以上のスピードで普及が進んでいます。われわれの見通しを上回っていると考えています。

森 [Q]：脳血管と止血について供給不足の心配はないでしょうか。

村瀬 [A]：供給不足に関しては問題ないです。在庫は十分確保しています。

森 [Q]：二つ目です。スライドの 17 で、このシェーマを見る限り大動脈弁を通っていきませんが、このカテーテルは大動脈弁を通していく方向でしょうか。

村瀬 [A]：こちらは村瀬から回答します。

おっしゃるとおり、大動脈弁を通っていくことになっています。

森 [Q]：こちら側は、左室側に行くのが、大動脈弁を通すのが手技的に難しいと思いますが、ここについては弁を通していくのはそんなに難しくないのでしょうか。

伊藤 [A]：伊藤からお答えします。

以前の RF アブレーションでも、左室側のアプローチは今の中核穿刺をやるデバイスが普及する以前は、大動脈弁下のアブレーションは、普通にこのようなかたちでカテーテルを通して行っていますので、手技としてはまったく難しくないものです。

森 [M]：以上です。ありがとうございます。

シノハラ [M]：森様、ありがとうございました。それでは、あおぞら銀行のクメ様、お願いします。

クメ [Q]：お世話になっております。あおぞら銀行のクメです。ありがとうございます。2 点質問させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

1 点目が、心腔内除細動カテーテルのところで、PFA の症例数の伸び率の差異をご説明していただいたと思います。もう少し詳しく、伸び率の差異と、今後心腔内除細動カテーテルが下期にかけてどう伸びていくと想定されているのか教えていただけますか。

伊藤 [A]：伊藤からお答えします。

伸び率の差異としては、先ほど村瀬からお話があったように、競合製品がまだ上市されていなかったことがあり、差異が出ています。また、BeeAT を、PFA に手技が大きく変わったわけですが、引き続き多くの施設でご使用いただいております。その率は、昨年 11 月から PFA が始まり、全部ウォッチしておりますが、特に大きな変化はなく推移しています。症例数の伸びに比例して BeeAT も伸びていくと予想しています。

また、競合との差別化をどう図るかですが、当社では大腿静脈からアプローチする BeeAT をラインナップに揃えています。こちらは、非常に製品力があります。こちらの導入を今精力的に進めていますので、こちらで競合との差別化を図り、シェアを確保していく方針です。

クメ [Q]：PFA や心房細動全体の伸び率が、過去推移で 10% ぐらい伸びていると思います。今後心腔内除細動カテーテルに関しては、6% ぐらいの伸びが継続的に伸ばせるという理解でよろしいですか。

伊藤 [A]：そうですね。そのご理解でよろしいかと思います。

クメ [Q]：2 点目に、一過性の要因で、去年の取引先の貸倒債権の回収をしたことで、営業利益が上振れているというか、のっかっていると思います。これは期初から想定にあったものなのか、それとも期中で発生し、今回乗ったものなのか、どちらでしょうか。

江川 [A]：本件については江川から回答します。

今回 2 億円ほど回収したものについては、期初から想定していて、計画の中にも含んでいました。まだ 1 億円ほど貸倒債権が残っていて、こちらについてはまだ計画には入れていないのですが、今後回収の手続きを進めていく予定になっています。

クメ [M]：承知しました。ありがとうございます。質問は以上です。

シノハラ [M]：ありがとうございました。それでは、三菱 UFJ 信託銀行のオオタ様、ご質問をお願いします。

オオタ [Q]：お話ありがとうございます。三菱 UFJ 信託銀行のオオタと申します。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

1 点うかがいたい点があります。13 ページで、今回 PFA の浸透がさらに進む場合、トータルでは業績にポジティブとご記載いただいています。こちらを、あらためてご解説お願いします。

期初からの見通しから、BeeAT や止血デバイスが PFA の効果により実際に症例数が増えていると、それが実際に表れてきているのか、あるいは今後、その効果を期待しているのか、あらためてこのあたりのご解説と今後の見通しに関してうかがえますか。

伊藤 [A]：こちらも伊藤から回答します。

止血デバイスは予想以上に伸びたわけですが、当初、先生方の手技を変えるのはもう少しハードルが高いと考えていました。しかし、製品力、また先ほど村瀬の話にもあったように、患者様に対する貢献度が非常に高いデバイスですので、伸びてまいりました。

今浸透としては、かなりの高い精度で入っていますので、これからまた大きく伸びるかというご質問であると、もう一定数入ったと考えています。

また、BeeAT についても、今 PFA が症例に比例して伸びると先ほどお話ししたとおり、これ以上、今より高い割合で BeeAT が採用されることは難しいと考えています。

オオタ [Q]：一応、症例数の増加は、PFA によって手術が短くなり、症例数の増加は実際に起こっているという理解でいいのですか。それとも、今後期待しているのですか。

伊藤 [A]：症例数について、各病院の規模感によって比較したところ、PFA 導入によって中規模施設、症例数が比較的多いところだと 500 以上やっているわけですが、比較的中規模の施設が大きく伸ばしました。

これはあくまで想定でお話していますが、大規模の施設はもう一定数病院の手術室の時間枠を目いっぱい使ってやり切っているので、中規模に比べると伸びる要素が少ないと考えています。これから中規模から小規模のほうに浸透していくわけですが、今までと同様の伸びはなかなか難しいと考えています。

オオタ [M]：よくわかりました。ありがとうございます。

シノハラ [M]：オオタ様、ありがとうございました。それでは、質疑応答を終了させていただきます。

以上で、日本ライフライン株式会社 2026 年 3 月期第 2 四半期決算説明会を終了します。本日は、説明会にご参加いただき誠にありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



[了]

脚注

1. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com